

# ファイブ・ロキシシン

## 大手採用話題豊富な抗炎症ハーブ 論文報告

### 有効摂取量100ミリグラムと少量

(株)ディーエストレーディングが国内独占供給している抗関節炎素材「ファイブ・ロキシシン」は、DHCなど大手通販会社が採用したことで認知度が向上、これを受け薬局・薬店などの店舗販売のほか、会場販売で展開される最終製品への採用がここに至って広がっている。臨床試験で確認された関節炎に対する働きが海外の学術雑誌に論文掲載されていたり、製造元に対し公的機関が同素材の革新性を認めて賞を授与したりするなど、話題性が多いことが魅力。有効摂取量が1日当たり100ミリグラムと少量の点も強みとなっている。

アーユルヴェータに用いられてきたボスウェリアセラータの樹脂を原材料に、有効成分としてAKBAを30%以上

含有で規格化したもの。AKBAとはボスウェリアセラータの有効成分ボスウェリア酸のうち、炎症に関わるロイコトリエンを生成する5-リポキシゲナーゼに対し、最も強い阻害活性を持つことが見出された成分。インドの植物エキスメーカー大手、ライラニュートラ社と、米PLETMAS社が共同開発した。

ライラ社は2007年、インド政府科学産業研究院から最優秀技術開発賞を受賞。これは、抗炎症・抗関節炎素材として革新性の高い同素材の開発および商業化に対して贈られたものだ。

また、インド国内の医科大学で実施された同素材の関節痛軽減作用を検証した75名規模の臨床試験の結果は、08年学術誌「アースライティス・

リサーチ・アンド・セラピー」に論文掲載され、その内容は「フリティッシュ・メディカル・ジャーナル」でもボスウェリアセラータに関する最も優秀な文献として紹介された。

### 日本独自で飲料向け原料

同素材は、今年に入り、ド

## 関心高まったボスウェリア

「ファイブ・ロキシシン」の登場を受け、ボスウェリアセラータ樹皮抽出エキスは全般的に引き合いが増した。

ボスウェリアセラータで各種製品をラインナップしているサビンサジャパンコーポレーション(株)では、有効成分AKBA(Aセチルケト-β-ボスウェリン酸)を30%のほか、総βボスウェリン酸を50%含む「ボスウェリンスーパー」が昨夏以来リ

リンク類にも配合できる水分散性タイプの提案が始まった。これにより飲料型関節痛対応商材への採用を提案し、販売量を拡大させたい考え。

本来は飲料用途に向かない素材だが、日本独自企画製品としてディーエス社と横浜油脂工業(株)が共同開発した。「ファイブ・ロキシシン」を20%以上、そのうちAKBAを6%以上含有で規格化。水への分散性が高く、泡立ちも少ないため、各種ドリンク類をはじめ、ゼリーなどにも配合できる。

ニューラル需要を中心に堅調に推移している。

そのほかボスウェリアセラータ樹皮抽出物を取り扱うのは、日本新薬(株)、バイオアクティブスジャパン(株)、モナなどといったアーユルヴェータハーブ由来原料の取り扱いが多い事業者。大半がボスウェリン酸を規格化しており、日本新薬の製品では80%以上含有している。